

④ 学齢期の情報

以下の情報は、担当の相談支援専門員 定禅寺さんが、知朗さんの過去のことを知る関係者を探し、情報を得たものである。

小学6年生の時に受けた児童相談所における判定状況	I Q 68という記録はあるが、詳しいデータは不明。
教育関係者からの情報	中学の太鼓部の顧問だった先生から、「中学1年の頃は、よくしゃべり、張り切って何でもやりたがる子だった。幼い頃は、よく動き回る子だったと母親から聞いたことがある。」との話があった。
中学入学後に母親と相談に行ったことがある専門機関からの情報 ※その後、年に一回のペースで数回その機関に通っている。離婚後もしばらく母親が連れて行っていた。	「母親がとても心配そうに知朗さんを連れてきて、『知朗はやさしい子です。でも、乱暴なところがあるからと学校から追い出されてしまったのです。何ができていないかを知りたいのです。』と訴えたので、印象に残っています」とのこと。（以下は、5年前の高等部2年生の時の状態について、聴取した内容をまとめたもの。） 【日付、時刻】 よく理解できている。 【数、数量】 計算には時間はかかるが、二桁までの加減は大体良好。三桁になると難しい。買い物の時には、大きな金額の札で支払いおつりをもらっていた。 【書字】 筆圧が弱く、読み取れない字も多く、線が一本抜けていたり、多かたりする。筆順は自分なりの書き方。 【読み】 一、二行の文章はわりとすんなり読むことができていた。 難しい漢字でも知っているものがあつた。読み違い（勝手読み）は目立っていた。 【聞き取り】 一対一での指示は通るが、集団における指示はほとんど通らない。特に周囲で誰かが話しているとその話にも気をとられてしまう。三人以上で話し合うことはかなりストレスになる。早合点してしまうことも目立つ。 【話すこと】 慣れた相手だと、早口になる。筋道の通った話をするのが難しく、何が言いたいのか周りに伝わりにくいことがある。 【比較・推測すること】 予想することは苦手。どうすればいいのかを考えて、自分の考えを述べることも難しい。自分の意思を言葉で表すことはできるが、誰か

	に言われたことを真似ているだけのことも多い。
特別支援学校高等部の 元担任からの情報	【指導上の留意点について】 ①同じような内容のことについても、理解できている時とそうでない時の差が大きい。特に集団の場面では、話したことが理解できていないことが多かった。 ②自分でできない時になかなかヘルプコールが出せない。 ③教えられたことを忠実にやろうとするが、思った通りにならないと、何か理由をつけてやっていることを止めてしまうことがあった。 ④人に認められたい気持ちはとても強く持っており、虚勢を張ってしまうところが度々見られた。 ⑤なかなか伝えたことが身につかない時に、繰り返し丁寧に声をかけていくと腹を立ててしまうことがあった。 【支援目標を達成していく上で効果が認められたこと】 ①作業していく内容については、他の生徒がいない教室で、担任と一対一で見本を示しながら教示していくと、5～6工程の内容でも対応できることは多かった。 ②やるべきことについての内容とその手順は、料理のレシピのように、写真を添えて文章で示すと、自分で確認しながら取り組めることが多くなった。